

令和4年4月19日に「令和4年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(令和4年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領:文部科学省から)

(2) 実施状況

○実施年月日 令和4年4月19日(火)

○実施内容 ①小学校の教科に関する調査(国語・算数・理科)

②中学校の教科に関する調査(国語・数学・理科)

③児童生徒質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)

○実施児童・生徒数

小学校6年生 16校 1,272人

中学校3年生 9校 1,086人

(3) 調査結果の見方

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり。

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

○中央値 ……… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと。

2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査(平均正答率:単位%)

○全体の傾向

小学校		国語	算数	理科
鎌倉市	R4	64	65	64
	R3	61	72	実施せず
神奈川県 (公立)	R4	65	64	63
	R3	63	70	実施せず
全国 (公立)	R4	65.6	63.2	63.3
	R3	64.7	70.2	実施せず

中学校		国語	数学	理科
鎌倉市	R4	74	61	55
	R3	70	65	実施せず
神奈川県 (公立)	R4	69	53	50
	R3	65	58	実施せず
全国 (公立)	R4	69	51.2	49.3
	R3	64.6	57.2	実施せず

小学校では、全国・県の公立平均正答率と概ね変わらない結果であった。中学校では、昨年度と同様に、全国・県と比べ公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が継続的に図られていると考えられる。

3 教科別概要と分析、改善に向けて

※記号について（神奈川県教育委員会の分析基準に準拠）

◇・・・・全国平均正答率より5ポイント以上高かった設問

◆・・・・全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問

※領域別分析の文末（ ）内に問題番号、市平均正答率

【小学校 国語】

《概要》

全体の平均正答率は全国平均と大きく変わらない。

「話すこと・聞くこと」の正答率は全国平均と概ね変わらない。

「読むこと」のすべての問題で正答率が全国平均に比べて高く、特に、描写を基にとらえる問題は正答率が高い。登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える問題と登場人物の相互関係について、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題、表現の効果を考える問題は正答率がやや高い。

しかし、「書くこと」については、文や文章を整える問題、自分の文章の良いところを見付ける問題ともに無回答率が高く、正答率がやや低い。

また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を使って書き直す問題と「我が国の言語文化に関する事項」については、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、無回答率が高く正答率が低い。具体的に文章を書く問題や漢字を書く問題などで無回答率が高く、言語に関する知識を活用できていない状況である。

《領域別分析》

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇該当なし

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。(3 三ア 57.1%) (3 三イ 47.9%)
(3 三ウ 59.3%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

漢字を適切に使うことができるようにするために、日常の学習の中で必要に応じて漢字を使って文章を書く学習の充実。

○学習例

自分の書いた文章について、適切に漢字を使用して書いているかを見直したり、ICT 機器を活用して文章を作成する場合に適切に変換したりするなどの学習。

我が国の言語文化に関する事項

◇該当なし

◆漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。(3四 68.2%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

相手の読みやすさを考えて、筆順に従って丁寧書くことや行の中心に文字をそろえることなどに注意して書くことを意識させることの充実。

○学習例

自分の書いた文章が読む相手にとって読みやすいものであるか、文字の形や大きさや文字の間隔、文字の配列など、大切なことを捉えながら書いたり読み返したりする学習。

話すこと・聞くこと

◇該当なし

◆該当なし

書くこと

◇該当なし

◆該当なし

読むこと

◇登場人物の相互関係について行動や気持ちなどについて、叙述をもとに考える問題。(2ー(2) 77.0%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

漢字の学習については、同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、日常の学習の中で既習の漢字を使って文書を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりすることや、新出漢字の読み方や意味を考え、文章中での正しい使い方を習得できるような基礎的な学習の定着を図る学習を取り入れることが必要である。

また、読みやすい文章を書くためには、文字の形に注意しながら筆順に従って丁寧に書くことや文字の配列など、相手を意識して書く学習を充実させる。

無回答率が高くなる傾向にある文章を記述する問題については、着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをまとめたり、考えを交流したりして人物像や物語の全体像を具体的に想像できるような活動をする必要がある。

【小学校 算数】

《概要》

調査の結果は全般的に全国平均よりやや高い。学習指導要領の全ての領域において全国平均より高い。「数と計算」に関する領域では、全体的に正答率が高いが、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を説明する問題、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題など、日常生活の問題を解決する力に課題がある。また、「変化と関係」では、数量が変わっても割合が変わらないことについて、正答率が全国的に低く、飲み物の濃さに対して誤って捉えていると考えられる。

《領域別分析》

数と計算

◇該当なし

◆示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できること(1(3)) (69.0%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

日常の問題を解決するために、数量の関係を捉え、式に表したり、式の意味を説明したりする指導の充実。

○学習例

具体的な場面を、図などを用いて数量の関係に着目して立式したり、理由を説明し合ったりすることで、様々な考え方を理解する学習。

図形

◇該当なし

◆該当なし

変化と関係

◇百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること(2(2)) (71.3%)

◇示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解していること(2(3)) (26.6%)

◆該当なし

データの活用

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

概ね基本的・基礎的な知識・技能が定着していると考えられる。ほとんどの問題において、全国よりもやや高い正答率となっている。

しかし、「数と計算」の領域では、示された場面を解釈し、数の仕組みなどを理解して考えを表現し、理由を説明する問題については課題であり、目的に合った数の処理の仕方を考えられるよう、指導の工夫、改善が必要である。

また、「変化と関係」の領域では、数量が変わっても割合は変わらないことについて理解が深まっておらず、日常の具体的な場面に対応させながら割合の考え方について指導方法を工夫していく必要がある。

【小学校 理科】

《概要》

調査の結果は全般的に全国平均よりやや高い。

しかし、記述式の問題については全国的に正答率が低く、特に自然の事物・現象から得た情報を他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題に課題があり、無回答率も高いため、科学的な思考に基づいて記述する力に課題があると考えられる。

また、エネルギー領域の中でも光の性質についての問題は、全国平均を上回ってはいるものの、29.8%と正答率が特に低かった。

《領域別分析》

エネルギー

◇該当なし

◆該当なし

粒子

◇該当なし

◆自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。(2(4)) (34.4%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

観察や実験の結果について、条件に着目して比較し、変化や違いについて科学的に思考したことを、適切な言葉を用いて説明する指導の充実。

○学習例

身近な自然事象の観察や実験において、その結果や理由について話し合う中で、自分や他者の気付きを捉え、相違点や共通点を基に問題を見出す学習。

生命

◇該当なし

◆該当なし

地球

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

概ね基本的・基礎的な知識・技能が定着していると考えられる。ほとんどの問題において、全国よりもやや高い正答率となっているが、記述形式の問題が全国より 2.4 ポイント正答率が低い。授業の中で、観察や実験の結果について、条件に着目して比較し、変化や違いについて科学的に思考したことを、適切な言葉を用いて説明する指導や、身近な自然事象の観察や実験において、その目的から条件設定を考えたり、実験結果を具体的な数値として共有したりして、何を根拠としているのかを説明する学習や、見てわかる図の表現の指導を充実させることが必要である。

【中学校 国語】

《概要》

全国平均を上回る問題が多く、5 ポイント以上上回った問題が 8 問あり、全体的に良好な結果だと言える。また、無回答率も全国平均に比べ、低めである。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、「点画」の意味や行書における「省略」の理解に課題が見られる。また、「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」の両領域に関わる自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題において、正答率が全国の平均を下回った。根拠を明確にするための適切な引用の仕方の理解に課題があると考えられる。

《領域別分析》

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書くこと。(1 三)(63.0%)

◇「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択すること。(3 一)(64.4%)

◇「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択すること。(3 二)(89.6%)

◆該当なし

情報の扱いに関する事項

◇該当なし

◆該当なし

我が国の言語文化に関する事項

- ◇行動の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択すること。(4一)(45.5%)
- ◇書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択すること。(4三)(86.4%)
- ◆該当なし

話すこと

- ◇話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択すること。(1二)(75.2%)
- ◇スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書くこと。(1三)(63.3%)
- ◆該当なし

書くこと

- ◇該当なし
- ◆該当なし

読むこと

- ◇話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替えること。(3三)(68.7%)
- ◇「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書くこと。(3四)(81.6%)
- ◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇該当なし
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

全体的に見て正答率は全国平均を上回るものが多いが、全国と同様に正答率が低かった設問については課題とすべきである。

「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、正答と同程度の割合で選ばれた誤答があり、「点画」や行書における「省略」などの、行書の特徴への理解を深めるように、楷書で書いた漢字と比較するなどこれまで学習してきたことを踏まえた指導をする必要がある。

また、全国平均を下回った「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」の両領域に関わる記述式の問題では、引用の条件を満たせずに解答しているものが多かったため、根拠を明確にするための適切な引用の仕方の理解を深めるように指導する必要があり、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめる学習が大切である。

無解答の割合については全国平均と比べて低く、ねばり強く問題に取り組もうという姿勢が見られる。

【中学校 数学】

《概要》

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式の何れも神奈川県や全国の平均を上回る良好な結果となった。

領域別では、特に関数の分野の正答率が全国平均を大きく上回っており、関数の特徴について理解ができていくことがわかる。また、問題形式別では、記述式の正答率が全国平均に比べて10ポイント以上上回っており、考えを説明する力も定着している。ただ、図形領域における記述式の問題では無解答率が高く、課題である。

《領域別分析》

数と式

- ◇自然数を素数の積で表すこと(1) (59.2%)
- ◇簡単な連立二元一次方程式を解くこと(2) (80.7%)
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉えること(6(1)) (84.3%)
- ◇目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること(6(2)) (61.8%)
- ◇結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること(6(3)) (46.5%)
- ◆該当なし

図形

- ◇反例の意味を理解していること(3) (51.6%)
- ◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること(9(1)) (84.0%)
- ◇道筋を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること(9(2)) (22.2%)
- ◆該当なし

関数

- ◇一次関数の変化の割合の意味を理解していること(4) (52.4%)
- ◇与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること(8(1)) (60.8%)
- ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること(8(2)) (50.2%)
- ◆該当なし

データの活用

- ◇多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している(5) (89.1%)
- ◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること(7(1)) (52.7%)
- ◇箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる(7(2)) (53.1%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式の何れも神奈川県や全国の平均を上回る良好な結果となったことから、概ね基礎的・基本的な力が定着しているものと考えられる。今後も学習内容を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫改善を進める。

筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明する問題の正答率が低く、無回答率が高い点は課題である。図形を見出すことや、総合的・発展的に考察することができるように、観察や操作、実験など、日頃から筋道を立てて考える活動を取り入れ、根拠を明示して数学的に説明するよう指導していくことが大切である。

【中学校 理科】

《概要》

すべての問題で県、全国の平均を上回っており、全国平均を5ポイント以上上回った問題が12問もあるなど、全体的に結果は良好である。ただし、「エネルギー」を柱とする領域では、正答率が全国、県も含めかなり低い問題があり、知識及び技能を関連付て分析をし、解釈することに課題がある。考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定値を増やすかを説明する記述式の問題では、無解答率が高く課題がある。

《領域別分析》

エネルギー

◇考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定値を増やすかを説明すること。(5(3))(55.0%)

◆該当なし

粒子

◇水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化に関すること。(3(2))(65.7%)

◇状態変化に関する知識と技能を活用できること。(7(1))(46.7%)

◇実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善すること。(7(2))(59.7%)

◆該当なし

生命

◇節足動物のあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連づけ、その理由を説明すること。(4(1))(49.8%)

◇複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面で、あしの骨格について共通点と相違点がわかること。(4(2))(73.5%)

◇アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述すること。(8(1))(66.4%)

◇予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘すること。(8(2)) (64.6%)

◆該当なし

地球

◇観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択すること。(2(1)) (61.9%)

◇上空の気象情報を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断すること。(2(3)) (34.5%)

◇過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できること。(6(2)) (68.0%)

◇東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択すること。(6(3)) (39.2%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

どの問題も県、全国の平均を上回る良好な結果であったもの、「地球」の領域において、観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する問題の正答率が低く、他者の考察を多面的、総合的に検討して改善できる力や、時間的、空間的な見方を働かせながら、様々な資料を関連付けて解釈する力などに課題がある。また、「エネルギー」の領域で、全国、県とともに正答率がかなり低いものが複数あった。化学変化と「エネルギー」を柱とする領域に関する知識及び技能を関連付け、分析して解釈できるようにするため、ICT機器等を使い、化学変化を起こすきっかけとなるエネルギーの形態だけでなく、それらを生み出す過程についても触れることが重要である。また、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表して説明する問題について、実験を通して一つの物体に二つの力が働いていることに気づくようにし、矢印で表してつり合いの関係を説明する学習場面を設定する必要がある。

4 児童生徒質問紙の特徴及び課題と改善に向けて

※記号について

◇良好と認められる点 ◆課題のある点

※文末（ ）内は設問番号

【児童質問紙 小学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

◇1日当たり3時間以上テレビゲームをしている児童の割合は24.9%で、全国の30.7%より低い。(5)

◎学校生活について

◇自分の考えを工夫して発表していた、どちらかといえば工夫して発表していた児童の割合は76.5%で、全国の65.4%より高い。(38)

◆授業でICT機器を週3回以上使用した児童は48.6%で、全国の58.2%より低い。(32)

◆授業中に調べる場面でICT機器を週3回以上使用した児童の割合は、38.2%で、全国の43.9%より低い。(33)

◆学級の友達と意見交換をする場面でICT機器を週3回以上使用した児童の割合は15.5%で、全国の22.5%より低い(34)

◆学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている、どちらかといえば決めていると答えた児童の割合は67.6%で、全国の73.5%より低い。(45)

◎家庭生活について

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたり2時間以上勉強している児童の割合は37.6%で、全国の25.1%より高い。(21)

◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり3時間以上勉強している児童の割合は23.0%で全国の13.6.0%より高い。(22)

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたり1時間以上読書している児童の割合は23.1%で、全国の17.3%より高い。(23)

◇自分の家にある本の数が0～25冊の児童の割合は16.7%で、全国の30.5%よりも低い。(24)

◇新聞を週に1～3回程度、または毎日読んでいる児童の割合は18.9%で、全国の13.8%より高い。(25)

◎地域生活について

◇地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童の割合は、54.0%で、全国の51.3%より高い。(30)

《改善に向けて》

◎個人について

1日当たり3時間以上テレビゲームをしている児童の割合は全国よりも低く、テレビゲーム以外での遊びや経験を通して、多様な価値観に触れていることがうかがえる。基本的な生活習慣についてはおおむね良好だが、規範意識については課題がみられる。家庭、学校、地域の様々な活動や体験の中で、規範意識や思いやりの心について醸成していくことが課題である。

◎学校生活について

自分の考えを工夫して発表する機会が多くあり、児童が自信をもって発表できることもつながっていると考えられる。しかし、学級会での話し合いでは互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているという児童の割合が比較的少なく、より深い学びにつなげるためにもお互いの発表や意見のよさを認め合う活動に力を入れることが求められる。ICTの活用については、経年で見ると進んでは来ているものの、全国に比べて遅れがちである。一人一台のタブレットを、調べ学習や意見交換を含む学習に生かす場面や方法について、アイデアの共有や研究、研修を通して、児童も教員も学習効果を感じられるようにすることが必要と考える。

◎家庭生活について

学校の授業とは別に、家庭で学習する児童は全国と比べ良好であると考えられる。学校の授業における課題の出し方の工夫や、家庭の学習環境を整える工夫等により、家庭ですべきことが明確になっていることがうかがえる。また、本や新聞に触れる機会も多く、さまざまな情報に触れることが多く、情報を適切に活用する能力の育成が求められているといえる。

◎地域生活について

地域の行事に参加する児童の割合は全国の平均よりもやや低いが、県の平均よりも高いことや、コロナ禍の影響で行事自体が減っている影響を鑑みても、地域社会に参加する児童が市内で特に少ないと考える必要はないと思われる。今後も引き続き、児童へ地域社会での行事やボランティアへの参加をよびかけるなど、地域社会との関わりやつながりを増やしていくことが大切であると考えられる。

【生徒質問紙 中学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

◇1日当たり3時間以上テレビゲームをしている生徒の割合は23.8%で、全国の29.8%より低い。(5)

◎学校生活について

◇前年度までに受けた授業で、ICT機器を週3回以上使用した生徒の割合は73.6%で、全国の50.9%より高い。(32)

◇学校で授業中にICT機器を使って調べる活動を週3回以上行っている生徒の割合は66.9%で、全国の

37.2%より高い。(33)

◇学級の生徒と意見を交換する場面で、ICT 機器を週3回以上使っている生徒の割合は23.6%で、全国の17.8%より高い。(34)

◇自分の考えをまとめ、発表する場面で ICT 機器を週3回以上使っている生徒の割合は23.0%で、全国の15.0%より高い。(35)

◇前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会に、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた、どちらかといえば発表していた生徒の割合は85.3%で、全国の63.3%より高い。(38)

◇前年度までに受けた授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた、どちらかといえば取り組んでいたという生徒の割合は84.4%で、全国の79.2%より高い。(39)

◇学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた、どちらかといえばできた生徒の割合は79.8%で、全国の74.7%より高い。(44)

◇総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる、どちらかといえば取り組んでいる生徒の割合は85.1%で、全国の72.1%より高い。(45)

◇数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている、どちらかといえば考えている生徒の割合は75.3%で、全国の70.2%より高い。(59)

◇理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている、どちらかといえば考えている生徒の割合は59.7%で、全国の52.7%より高い。(64)

◇理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている、どちらかといえば立てている生徒の割合は70.9%で、全国の64.5%より高い。(67)

◇理科の授業で観察や実験の結果をもとに考察している、どちらかといえば考察している生徒の割合は88.8%で、全国の78.9%より高い。(68)

◆困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる、どちらかといえばできると答えた生徒の割合は60.7%で、全国の66.6%より低い。(14)

◎家庭生活について

◆毎日、同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合は73.3%で、全国の79.9%よりも低い。(2)

◇家で学校からの課題で分からないことがあった時に先生に聞く生徒の割合は39.8%で、全国の31.4%より高い。(19)

◇家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は66.6%で、全国の58.5%よりも高い。(20)

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたり2時間以上勉強している生徒の割合は52.5%で、全国の35.2%より高い。(21)

◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり3時間以上勉強している生徒の割合は31.3%で、全国20.6%より高い。(22)

◇自分の家にある本の本数が0～25冊の児童の割合は19.5%で、全国の34.2%より低い。(24)

◇放課後や週末に学習塾など学校や家以外の場所で勉強している児童の割合は60.3%で、全国の36.8%より高い。(31)

◎地域生活について

◆住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえば参加している生徒の割合は 32.6%で、全国の 40.0%より低い。(29)

《改善に向けて》

1 日当たり 3 時間以上テレビゲームをしている児童の割合は全国よりも低く、テレビゲーム以外での遊びや経験を通して、多様な価値観に触れることができていることがうかがえる。基本的な生活習慣についてはおおむね良好だが、規範意識については課題がみられる。家庭、学校、地域の様々な活動や体験の中で、規範意識や思いやりの心について醸成していくことが課題である。

◎学校生活について

ICT 機器の活用については全国に比べてかなり進んでいる様子が見られる。また、自分の考えを発表する際の工夫や課題の解決に能動的に取り組んだと考える生徒の割合も高く、ICT 機器の効果的な活用による結果と捉えることができる。数学や理科の授業が充実している様子が見られ、生活の中での活用について考える応用力も身につけていると考えられる。学校職員に相談する生徒の割合が低いことが課題であり、生徒一人一人を大切に思い、見守っていることを積極的に伝えることが必要である。

◎家庭生活について

就寝時間について、日によって異なる生徒の割合が高く、塾や習い事等、学校や家以外の場所で過ごし時間が増えていることがうかがえる。家庭での学習が習慣化している様子もうかがえるが、適切な課題の出し方や、積極的に休養を促すなど、体調や健康を第一にした教育活動が大切であると考えられる。

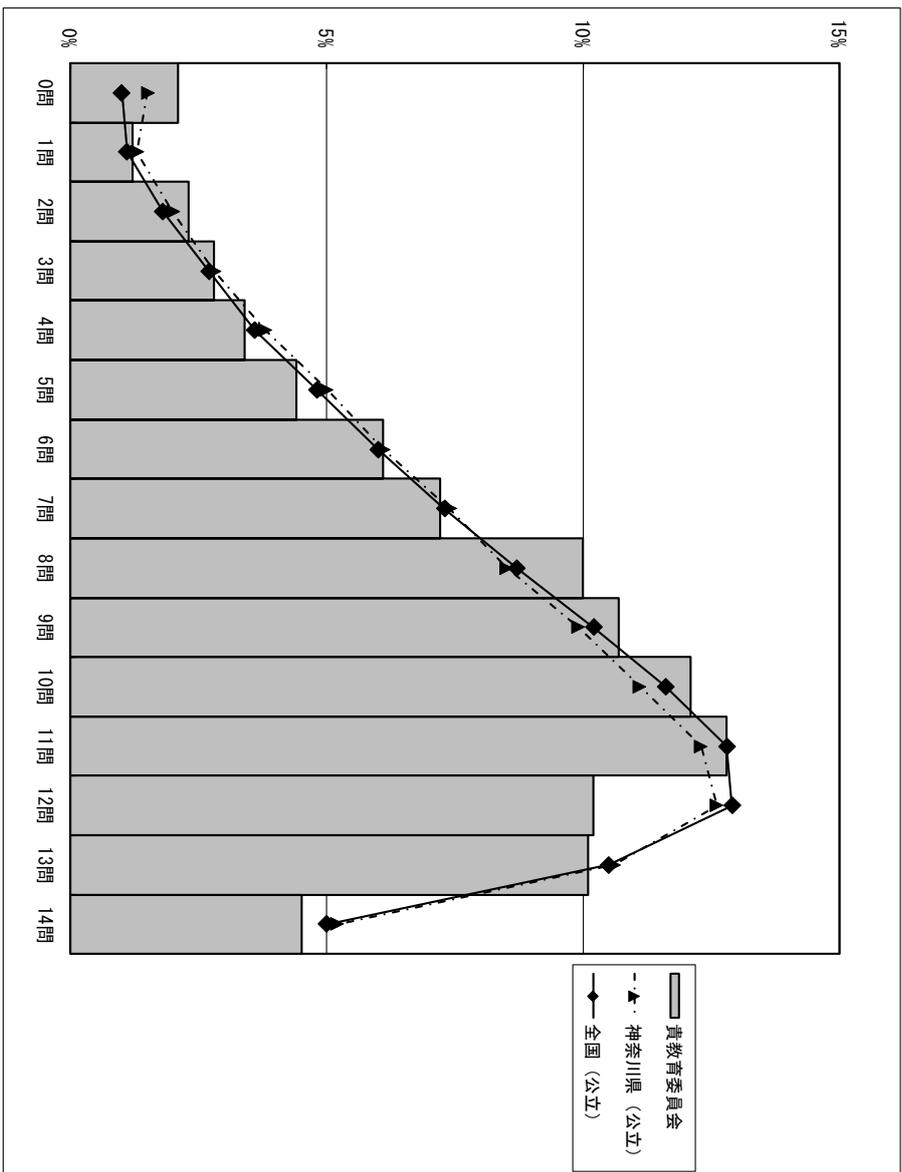
◎地域生活について

地域の行事への参加が少ないが、コロナ禍において行事自体が減っている可能性も考えられる。鎌倉市には地域に根差した行事や歴史のある伝統行事も多いので、学校で話題にしたり題材にしたりするなどの働きかけを増やしてもよいのではないかと考える。

以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,270	8.9 / 14	64	9.0	3.4
神奈川県 (公立)	69,948	9.1 / 14	65	10.0	3.4
全国 (公立)	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
1 4問	57	4.5	5.2	5.0
1 3問	128	10.1	10.6	10.5
1 2問	130	10.2	12.6	12.9
1 1問	163	12.8	12.3	12.8
1 0問	154	12.1	11.1	11.6
◇ 9問	136	10.7	9.9	10.2
8問	127	10.0	8.5	8.7
7問	92	7.2	7.4	7.3
6問	78	6.1	6.1	6.0
5問	56	4.4	5.0	4.8
4問	43	3.4	3.8	3.6
3問	35	2.8	2.8	2.7
2問	29	2.3	2.0	1.8
1問	15	1.2	1.3	1.1
0問	27	2.1	1.5	1.0

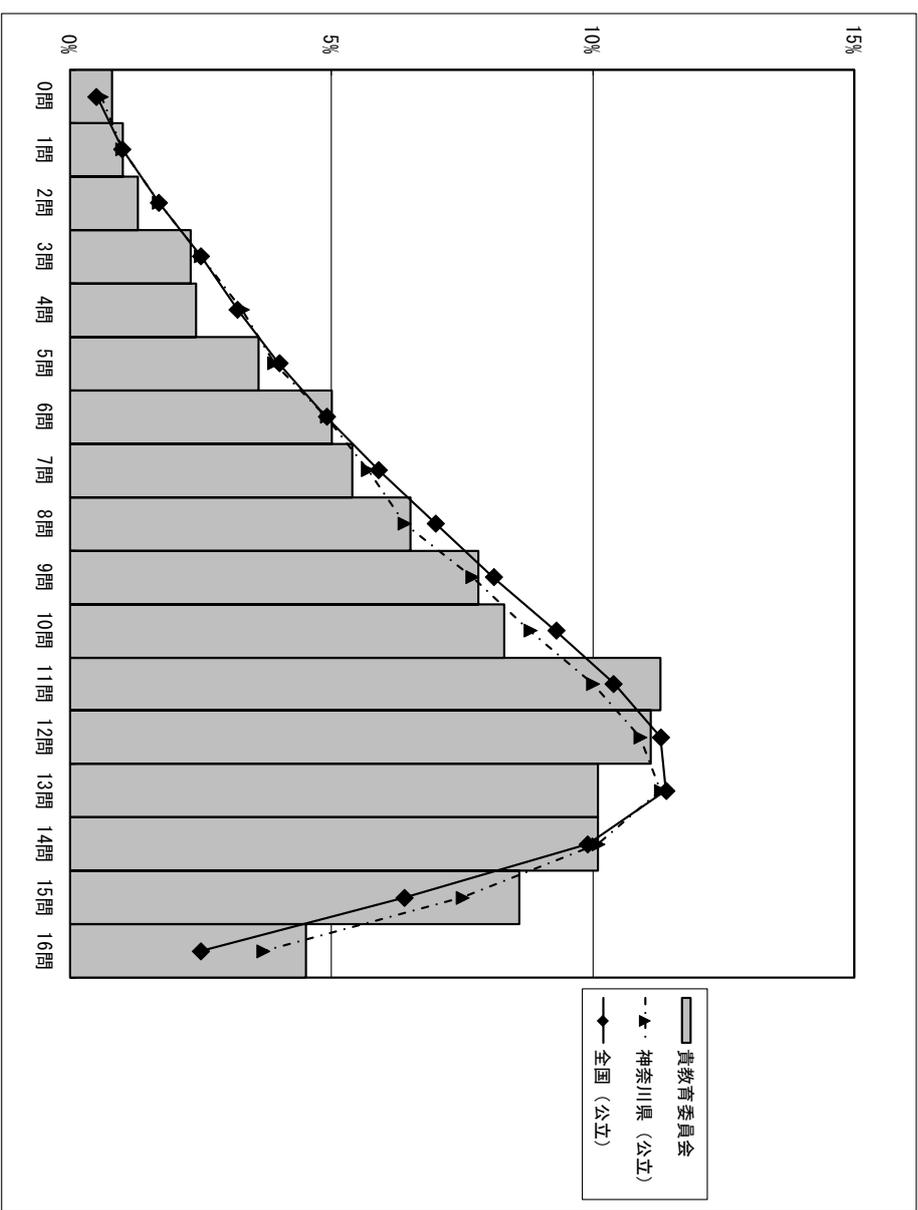
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	9.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,270	10.4 / 16	65	11.0	3.7
神奈川県 (公立)	69,951	10.2 / 16	64	11.0	3.7
全国 (公立)	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値 割合 (%)			
	児童数	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
16問	57	4.5	3.7	2.5
15問	109	8.6	7.5	6.4
14問	128	10.1	10.1	9.9
13問	128	10.1	11.3	11.4
12問	141	11.1	10.9	11.3
11問	143	11.3	10.0	10.4
10問	106	8.3	8.8	9.3
9問	99	7.8	7.7	8.1
8問	82	6.5	6.4	7.0
7問	69	5.4	5.7	5.9
6問	63	5.0	4.9	4.9
5問	46	3.6	3.9	4.0
4問	30	2.4	3.3	3.2
3問	29	2.3	2.5	2.5
2問	17	1.3	1.7	1.7
1問	13	1.0	1.0	1.0
0問	10	0.8	0.6	0.5

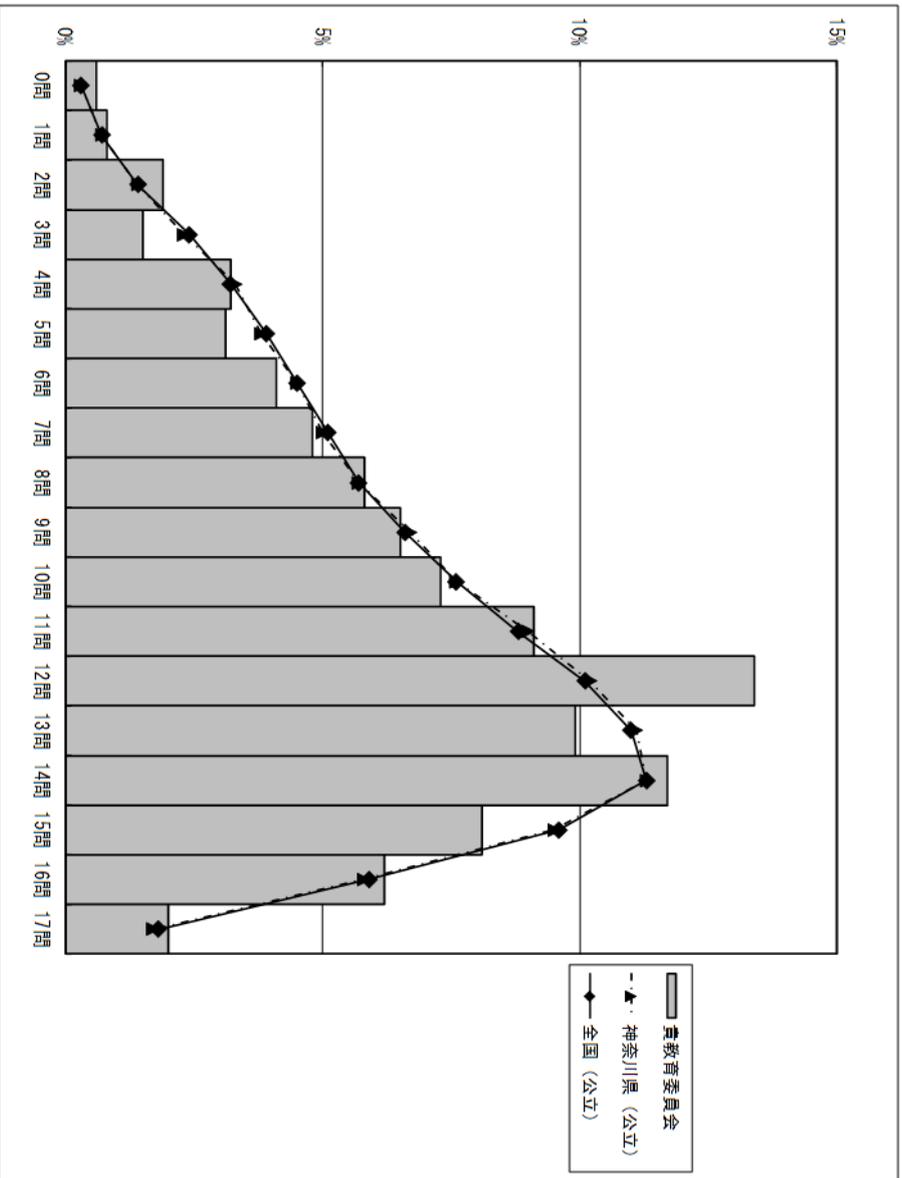
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問	8.0問

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,272	10.8 / 17	64	12.0	3.8
神奈川県(公立)	69,996	10.8 / 17	63	11.0	3.8
全国(公立)	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	市教育委員会	市教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
17問	25	2.0	1.7	1.8
16問	79	6.2	5.8	5.9
15問	103	8.1	9.5	9.6
14問	149	11.7	11.3	11.3
13問	126	9.9	11.1	11.0
12問	171	13.4	10.2	10.1
11問	116	9.1	9.0	8.8
10問	93	7.3	7.6	7.6
9問	83	6.5	6.7	6.6
8問	74	5.8	5.7	5.7
7問	61	4.8	5.0	5.1
6問	52	4.1	4.5	4.5
5問	39	3.1	3.8	3.9
4問	41	3.2	3.3	3.2
3問	19	1.5	2.3	2.4
2問	24	1.9	1.4	1.4
1問	10	0.8	0.7	0.7
0問	7	0.6	0.3	0.3

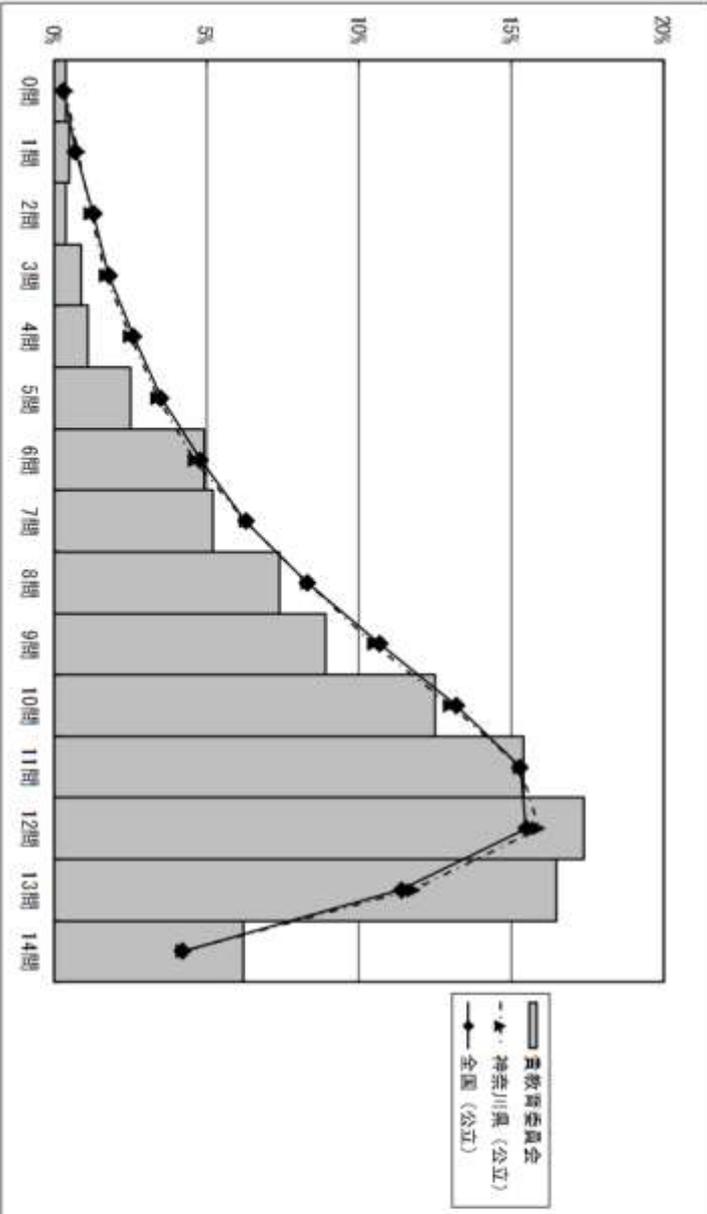
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

△ 第3四分位	市教育委員会(公立)	14.0問	神奈川県(公立)	14.0問	全国(公立)	14.0問
◇ 第2四分位	市教育委員会(公立)	12.0問	神奈川県(公立)	11.0問	全国(公立)	11.0問
▽ 第1四分位	市教育委員会(公立)	8.0問	神奈川県(公立)	8.0問	全国(公立)	8.0問

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,086	10.3 / 14	74	11.0	2.7
神奈川県(公立)	61,393	9.7 / 14	69	10.0	2.9
全国(公立)	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



	正答数集計値		
	生徒数	割合 (%)	
正答数	鎌倉市教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
14問	67	4.2	4.2
13問	179	11.8	11.4
12問	189	15.9	15.5
11問	167	15.3	15.3
10問	136	13.0	13.2
9問	97	10.5	10.7
8問	80	8.3	8.3
7問	56	6.3	6.3
6問	53	4.6	4.8
5問	27	3.4	3.5
4問	12	2.5	2.6
3問	10	1.7	1.8
2問	4	1.2	1.3
1問	5	0.8	0.7
0問	4	0.4	0.3

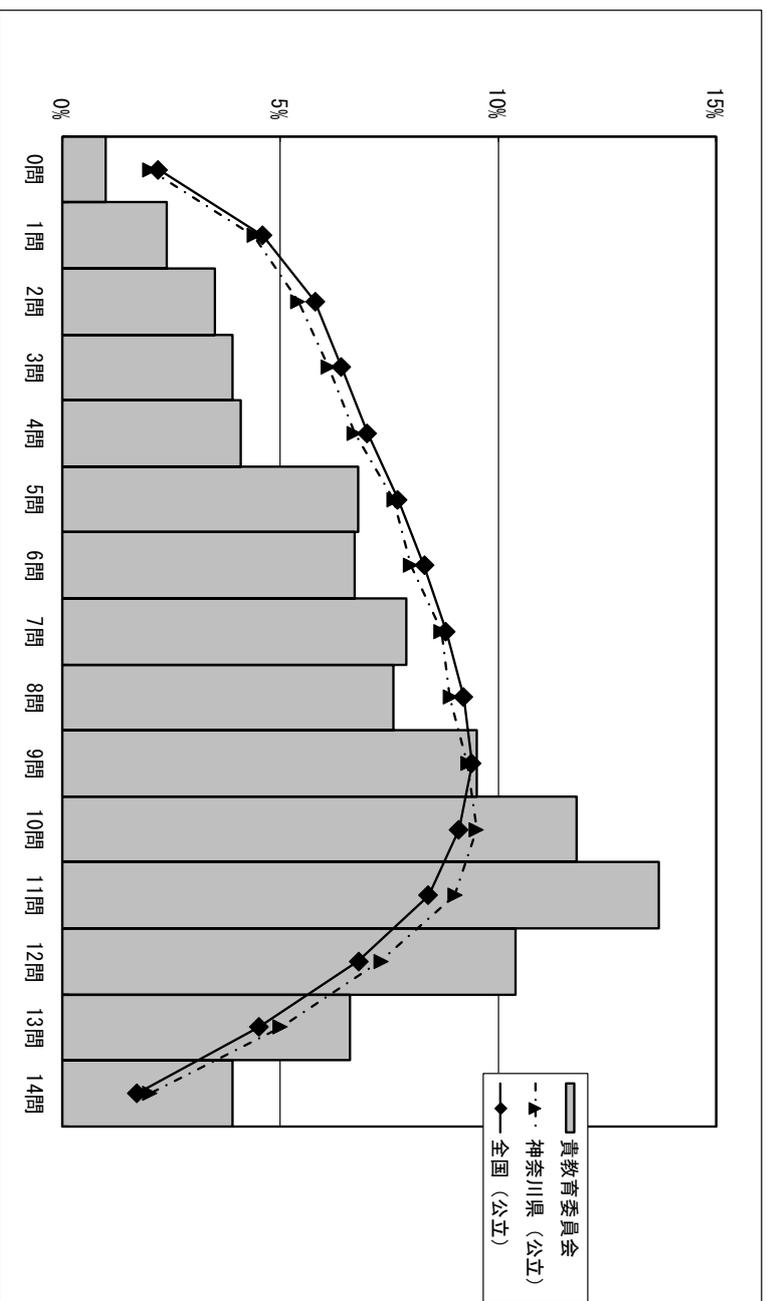
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

△ 第3四分位	鎌倉市教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
◇ 第2四分位	12.0問	12.0問	12.0問
▽ 第1四分位	11.0問	10.0問	10.0問
	9.0問	8.0問	8.0問

以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,085	8.5 / 14	61	9.0	3.5
神奈川県 (公立)	61,393	7.4 / 14	53	8.0	3.6
全国 (公立)	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



		正答数集計値			
正答数	生徒数	割合 (%)			全国 (公立)
		貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
14問	42	3.9	2.0	1.7	
13問	72	6.6	5.0	4.5	
12問	113	10.4	7.3	6.8	
11問	149	13.7	9.0	8.4	
10問	128	11.8	9.5	9.1	
9問	103	9.5	9.3	9.4	
8問	83	7.6	8.9	9.2	
7問	86	7.9	8.7	8.8	
6問	73	6.7	8.0	8.3	
5問	74	6.8	7.6	7.7	
4問	45	4.1	6.7	7.0	
3問	42	3.9	6.1	6.4	
2問	38	3.5	5.4	5.8	
1問	26	2.4	4.4	4.6	
0問	11	1.0	2.0	2.2	

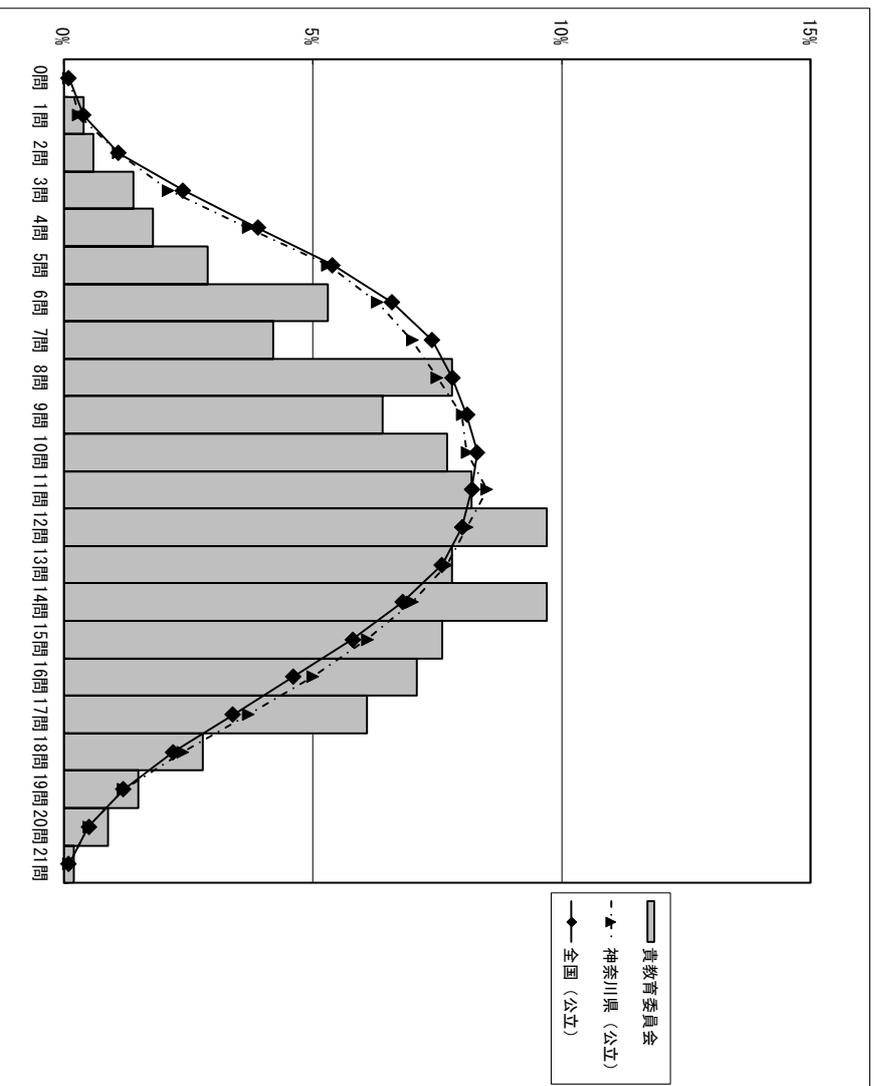
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	9.0問	8.0問	7.0問
▽ 第1四分位	6.0問	5.0問	4.0問

以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,085	11.6 / 21	55	12.0	4.0
神奈川県(公立)	61,439	10.5 / 21	50	11.0	4.1
全国(公立)	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)	神奈川県(公立)	全国(公立)
21問	2	0.2	0.1	0.1
20問	10	0.9	0.5	0.5
19問	16	1.5	1.2	1.2
18問	30	2.8	2.4	2.2
17問	66	6.1	3.7	3.4
16問	77	7.1	5.0	4.6
15問	82	7.6	6.1	5.8
14問	105	9.7	7.0	6.8
13問	85	7.8	7.7	7.6
12問	105	9.7	8.1	8.0
11問	89	8.2	8.5	8.2
10問	84	7.7	8.1	8.3
9問	69	6.4	8.0	8.1
8問	85	7.8	7.5	7.8
7問	46	4.2	7.0	7.4
6問	58	5.3	6.3	6.6
5問	31	2.9	5.3	5.4
4問	20	1.8	3.7	3.9
3問	15	1.4	2.1	2.4
2問	6	0.6	1.1	1.1
1問	4	0.4	0.3	0.4
0問	0	0.0	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	15.0問	14.0問	13.0問
◇ 第2四分位	12.0問	11.0問	10.0問
▽ 第1四分位	9.0問	7.0問	7.0問